



世界のトップ・アーティストたちの注目の公演

MUSE CONCERTS PICK UP

NHK交響楽団—首席指揮者就任記念 世界から尊敬を集める巨匠ルイージ

愛に満ちた**優しいベートーヴェン**だってあっていい!?

ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.61

ベートーヴェンと言えば、難聴に苦しみながら、不屈の精神で運命に立ち向かい《英雄》《運命》《第9》など傑作を生み出した偉大な作曲家。音楽室に貼られた有名な肖像画も、眉間にシワを寄せ、口をぐっと結び、鋭い眼光を向ける。その音楽は、同時代のハイドンやモーツァルトの優美さと違い、激しい感情がむき出しになり、強烈な響きで聴き手の心を驚つかみにする…。これも確かにベートーヴェンの特徴だが、この印象が強いあまり忘れられがちなのが、ベートーヴェンの美しい旋律を紡ぐ才能、そして祈りに満ちた優しく柔らかな音楽だろう。人口に膾炙する《エリーゼのために》を持ち出すまでもなく、《月光》の第1楽章、《悲愴》の第2楽章、ピアノ協奏曲第4番は、優しく穏やかで静謐な響きに満ちている。そんな作品の背景には、作曲家の恋愛が関係していることも少なくない。生涯独身を貫き、晩年は気難しい人物と思われたベートーヴェンも、若き日にはお洒落に気を使い、高価だったオーデコロン（香水）をふりかけ、貴族たちのパーティーにいそいそと出かけていく社交的な男性だった。そして多くの貴族女性に恋をして、そして身分の違いゆえに恋に破れた。



ベートーヴェンによるヴァイオリン協奏曲の自筆楽譜[1806年]
どんな想いを込めてこの優しい響きを綴ったのだろうか。

音楽面において、ベートーヴェンの優しく愛に満ちた特徴が最も鮮やかに刻まれているのが《ヴァイオリン協奏曲》。恋人の頭をポンポンと撫でるように、冒頭でティンパニが優しく鳴り響く本作も、貴族の令嬢でベートーヴェンのピアノの生徒であったヨゼフィーヌへの恋愛感情が見え隠れする。これほどまで幸福感と優しさに満ち、美しい旋律が次々と現れるベートーヴェンの作品は珍しい。とりわけ明朗な二長調で綴られた第2楽章は絶品。穏やかさが深い情感（愛情!?)へと変化し、そして祈りへと昇華していく様は、音楽の最も神秘的な瞬間といっても過言ではないだろう。

音楽面において、ベートーヴェンの優しく愛に満ちた特徴が最も鮮やかに刻まれているのが《ヴァイオリン協奏曲》。恋人の頭をポンポンと撫でるように、冒頭でティンパニが優しく鳴り響く本作も、貴族の令嬢でベートーヴェンのピアノの生徒であったヨゼフィーヌへの恋愛感情が見え隠れする。これほどまで幸福感と優しさに満ち、美しい旋律が次々と現れるベートーヴェンの作品は珍しい。とりわけ明朗な二長調で綴られた第2楽章は絶品。穏やかさが深い情感（愛情!?)へと変化し、そして祈りへと昇華していく様は、音楽の最も神秘的な瞬間といっても過言ではないだろう。

2022年9月24日[土] 14時開演 ファビオ・ルイージ指揮 NHK交響楽団 詳細は➡





世界のトップ・アーティストたちの注目の公演

MUSE CONCERTS PICK UP

ルイーゼのパッションがフィナーレで爆発！

笑顔溢れる幸福なブラームスだってあっていい！？

ブラームス：交響曲第2番 二長調 Op.73

ブラームスもまたベートーヴェン同様に生涯孤独を貫いた。若きブラームスの才能を「新しい道」と題した評論で激賞したシューマンが精神に病を抱えたまま亡くなると、ブラームスはシューマンの妻であったクララと急接近。お互いに「Du=おまえ」と呼び合い、ラブレターと見間違えるような手紙を数多く（約800通も！）送り合った。交響曲第1番のフィナーレ、ベートーヴェンの「第9」に似た有名なメロディが紡ぎだされる直前のホルンのフレーズは、実はブラームスがクララの誕生日に贈った絵ハガキに綴った旋律で、次のような歌詞が添えられている。「高い山から、深い谷から、君に何千回もの挨拶を贈ろう。」こんなラブレターのようなメロディを交響曲に忍ばせたブラームスだが、ついにクララに愛する想いを伝えることはなかった…。ブラームスはほかに、アルト歌手のシュピース、シューマンの三女ユーリエなど、何人かの女性に密かに想いを寄せたが、いずれも想いを伝えることはなく、孤独を貫いた。そんなブラームスの音楽の特徴は一言で要約するなら「哀愁に満ちた男の背中」。中低音を中心に派手さを排した緻密な音作り（短調が多い！）は、渋く内向的で憂いを感じさせる。だが1877年に美しいペルチャッハの地でわずか4カ月で書き上げられた交響曲第2番には、そんな渋み切ったブラームスはいない。ここには優しいほほ笑みを浮かべながら美しい自然をゆくブラームスの姿がある。ブラームスは友人に「ここには、メロディがたくさん飛び交っているので、それ踏みつばさないよう・・・」と書き送ったが、その言葉通り交響曲2番では幸福感に満ちたメロディが次々と歌いだされる。美しく牧歌的な第1楽章、抒情的な第2楽章、ロンド形式の快活な第3楽章も見事だが、とりわけ素晴らしいのは第4楽章。心に秘めた喜びがついに溢れだし、胸の鼓動が抑えられないかのように楽想が喜び踊る。そしてフィナーレではさらにテンポを速め、まるで歓喜が爆発するかのうようにオーケストラの tutti（全合奏）の上にトランペットが高らかに鳴り響く。



当代最高のピアニストとして名声を博し、その美貌でも音楽界の注目をあつめたクララ・シューマン。夫シューマンの死後はブラームスと急接近した。

2022年9月24日 [土] 14時開演 ファビオ・ルイーゼ指揮 NHK交響楽団 詳細は➡

